



ニュースレター No. 120

在日メキシコ大使館

2014年9月



@EMBMEJAPON



EMBAJADA DE MÉXICO EN JAPÓN

在日メキシコ大使館

〒100-0014 東京都千代田区永田町 2-15-1

<http://embamex.sre.gob.mx/japon>



ニュースレター No.120 (2014年9月)

1. メキシコ市・新国際空港建設計画の発表
2. ポポル・ヴフ ニカ国語版(スペイン語・日本語)を初めて刊行
3. 大使館主催の昼食会－秋篠宮両殿下をお招きして－
4. 第204回独立記念日祝賀行事
5. MIKTAのPRをめざす懇談会
6. 「核兵器全面廃絶国際デー」記念集会
7. メキシコ北東部・投資セミナー
8. ロードストーン・セミナー「日本・メキシコ自動車産業の最新動向とビジネス・チャンス」
9. メキシコ州投資セミナー
10. メキシコ大使館 「大多喜お城まつり」に参加
11. お知らせ

メキシコ市・新国際空港建設計画の発表



新空港のデザイン

2014年9月3日、エンリケ・ペニャ・ニエト大統領は、メキシコ市・新国際空港建設計画(AICM)発表式典で開会の辞を述べ、その特徴である規模、デザイン、社会的インパクトにおいて、同空港はメキシコの近代化を象徴する画期的な建造物となるであろうと語った。工事の第一段階で建設される併用可能な3本の滑走路は、5000万人以上の旅客に対応でき、最終的には、年間1億2000万人以上に対応可能な6本の滑走路が完成する。

新空港は、現在の国際空港から10Kmの場所に位置する予定であり、メキシコ市及び都市からのアクセスに優れる。建設時には16万人、フル稼働時には40万人の雇用を創出する。国際的にハイレベルな環境基準の下に運行され、クリーン・エネルギーとグリーン・テクノロジーが導入される。国内最大の湖沼地帯が保護され、バジェ・デ・メヒコ渓谷東部にとって大きな「肺」となる、700ヘクタール近くの新しい森林都市が創設される。

ポポル・ヴフ ニカ国語版(スペイン語・日本語)を初めて刊行



ポポル・ヴフ ニカ国語版（スペイン語・日本語）を初めて刊行

2014年9月3日、当大使館の多目的ホール「エスパシオ・メヒカーノ」において、西日ニカ国語版の形式では初めての刊行となる「Popol Vuh: Las Antiguas Historias del Quiché」ポポル・ヴフ マヤ神話」のブック・プレゼンテーションが開催。同イベントは、在日グアテマラ大使館との共催で実施され、秋篠宮殿下、妃殿下のご臨席を賜り、日本国衆参両院の議員も数名出席された。

プレゼンテーションでは、マヤの人々の素晴らしい宇宙観や口承が一部紹介され、ポポル・ヴフの世界を描いた挿絵原画のディエゴ・リベラ作水彩画 17点とグアテマラ人画家カルロス・メリダ作版画 10点（いずれも複製）が展示された。さらに、たばこと塩の博物館学芸部長 半田昌之氏による記念講演のほかグアテマラ・マヤ文化協会による訳文朗読と音楽演奏も披露された。



ポポル・ヴフ ニカ国語版の表紙

大使館主催の昼食会 – 秋篠宮両殿下をお招きして –



秋篠宮両殿下の大使館ご訪問

2014年9月24日、当大使館は、ご訪墨前の秋篠宮両殿下をお招きして昼食会を催しました。両殿下は、1997年に初めてメキシコを訪問されて以来興味を抱かれるメキシコの文化について言及され、今回の訪問でも更に理解を深めたいと述べられました。

ご日程の中で、日本が特別招待国となったセルバンティーノ国際芸術祭オープニングへのご臨席、そして、エンリケ・ペニャ・ニエト大統領への表敬訪問が予定されています。今回のご訪問は、支倉使節団訪墨400周年の祝賀に因むものです。

第 204 回独立記念日祝賀行事



独立記念日式典



大使館でマリアッチ・アガベの演奏に興じる人々

フィエスタ・メヒカーナ（お台場）

9月15日、今年が204周年である独立記念日の祝賀式典が大使館で開催され、約800人のメキシコ人が集まった。独立運動に因む恒例のスピーチと国歌斉唱を内容とする公式行事の後、メキシコの飲み物や料理が提供されて参加者交流の場が提供された。また、各地で企画された独立記念行事に出演する目的で来日した楽団「マリアッチ・アガベ」が来館し、演奏を披露した。

独立記念日関連のイベントは、9月15日も含めて、9月13日から27日までの期間に、お台場、大阪、東大阪、箕面、奈良、東京都千代田区、名古屋で行なわれた。



フィエスタ メヒカナ (奈良)



独立記念日イベント (名古屋)

MIKTA の PR をめざす懇談会

9月5日、MIKTA の存在を日本で PR する目的の懇談会がメキシコ大使館で催された。会合には、MIKTA 各国の大使に加えて、主要な中進国の研究に従事する著名な日本人専門家も出席した。

MIKTA は、メキシコ、インドネシア、韓国、トルコ、オーストラリアによって構成される非公式な対話フォーラムである。その目的は、メンバー国相互の関係強化、意見交換、共通の関心事であるグローバル・イシューの協議や連携の推進である。メキシコは、2013年9月から本年9月1日まで MIKTA の幹事国として各種協議の調整を担当したが、今回、韓国にその職務を引き継いだ。



MIKTA 懇談会出席者

「核兵器全面廃絶国際デー」記念集会



9月26日は、核兵器の全面的廃絶のための国際デーであった。この国際デーは、核兵器廃絶の真のメリット及びその保持に要する社会的・経済的費用のデメリットに関する認識を広める目的で、2013年12月5日の国連総会決議で制定された記念日である。

「被爆70年へ 被爆者とともに核兵器廃絶を」に大使館代表が出席

この国際デーに因み、「被爆70年へ 被爆者とともに核兵器廃絶を」と題する集会を日本原水協が主催した。来賓として招かれたメキシコ大使館のアルマンド・アリアガ臨時代理大使は、核軍縮と核不拡散実現に取り組んでいるメキシコのスタンスとイニシアチブについてスピーチを行なった。また、本年2月に開催されて、被爆者等による被爆証言セッションを組入れたナジャリー会合(メキシコ)「第2回核兵器が及ぼすの人道上的インパクトに関する国際会議」にも言及した。記念集会の主催者たちは、メキシコが引き続き核軍縮の分野でリーダーシップを発揮し、核兵器の無い世界の実現に邁進していることを確認した上で、満足の意を表明した。

メキシコ北東部・投資セミナー

2014年9月5日、エスパシオ・メヒカーノにおいて、プロメヒコ主催、当大使館後援の「メキシコ北東部四州政府・投資セミナー」が開催され、日本企業約60社が参加した。セミナーでは、コアウィラ、ドゥランゴ、ヌエボレオン、タマウリーパス、以上四州政府の代表者が各州の提供する競争優位点を強調した。さらに、メキシコの自動車、法律、不動産、建築、人材派遣などの各分野の専門家が出席し、対メキシコ投資に関心のある日本企業に対して有益な最新情報を提供した。

当大使館代表は、その開会の辞で、あらゆる分野におけるメキシコと日本との良好な関係について述べ、貿易投資額の実績が過去最高の水準に達しており、絶頂期にある旨強調した。さらに、メキシコに進出した約800以上の日本企業は、墨日EPA（2005年発効）をはじめとする我が国の競争優位点を十分に活用しており、現政権が推進するエネルギー改革などの各種改革は、更に二国間関係を発展させると指摘した。



メキシコ北東部・投資セミナーの様子

ロードストーン・セミナー

「日本・メキシコ自動車産業の最新動向とビジネス・チャンス」



ロードストーン・セミナーの様子

2014年9月10日、エスパシオ・メヒカーノにおいて、プロメヒコ主催、当大使館後援のロードストーン・セミナー「日本・メキシコ自動車産業の最新動向とビジネスチャンス」が開催され、サンタック（Suntak）、シティウス・キャピタル（Citius Capital）、ベーカー＆マッケンジー（Baker & McKenzie）、豊田通商の各社が参加した。

当セミナーでは、2013年の1年間を通じて5000社以上の外資企業が350億ドル以上（対2012年度比178%増）をメキシコに投資した点をふまえ、世界レベルにおいてメキシコが投資対象国としてベスト・オプションであることが強調された。その内の15億3800万ドル（全体の4.4%に相当）が日本企業による投資額であり、メキシコのFDI（*海外からの直接投資受入れ額）の国別ランキングでは、日本は世界レベル第4位、アジア域内第1位の座を占めている。当セミナーを通して、メキシコに投資する機会の判断材料となる不動産、建築、法律、自動車産業等に関する最新情報が約100名の参加者へ提供された。

メキシコ州投資セミナー

9月19日、当大使館エスパシオ・メヒカーノにて、「メキシコ州投資セミナー」が開催され、日本企業約25社の代表が参加した。同セミナーは、メキシコ州政府経済開発局の訪日ミッションの一環であり、同代表団は滞在中、日本貿易振興機構（JETRO）、経団連、国際協力機構（JICA）、日本自動車部品工業会（JAPIA）の他、筑波大学を訪れ、会合をおこなった。



メキシコ州投資セミナーにおける参加者の様子

セミナーでは、同州の利点である地理上の戦略的ロケーション、国内最大の消費市場、進歩的な政府、技術開発の高い潜在力、専門性を有する労働力、道路・鉄道・空港などの良好なインフラが強調された。また、海外からの投資にチャンスのある（1）自動車、（2）食品・飲料、（3）化学・製薬、（4）繊維、（5）観光、の五大主要産業が列挙された。

メキシコ大使館 「大多喜お城まつり」に参加

9月28日、恒例の「大多喜お城まつり」(千葉県)に、飯島勝美町長の招きを受けた大使館代表のグループが参加した。メキシコと日本を結びつけた歴史的な交流に因んで毎年行なわれる同行事には、猪口邦子、豊田俊郎両参議院議員も出席した。

1609年9月30日、フィリピン臨時総督の任務を終えたドン・ロドリゴ・デ・ビベーロを含む373人の乗ったガレオン船サン・フランシスコ号が、マニラからアカプルコに向かう途中、座礁損壊した。56人はこの嵐の犠牲者となったが、残りの317人は救出され、大多喜城で領主の歓待を受けたとの記録が残されている。



左から順に、豊田俊郎参議院議員、
飯島勝美大多喜町長、猪口邦子参議院議員、
アルマンド・アリアガ・オチョアテギ臨時代理大使



大多喜お城まつりに大使館代表が出席

お知らせ



カルテット・ラティーノアメリカーノ

同カルテットは、1982年にメキシコで結成され、2012年には「ブラジレイロー」でラテングラミー賞を獲得した。優れたラテンミュージックの演奏を特長とする弦楽四重奏団として世界的な名声を得ている。

11月5日（東京）津田ホール 18:30～

<http://tsudahall.com/>

11月7日（京都）森田記念講堂 18:30～

<http://okamura-co.com/ja/events/Cuarteto-Latinoamericano2014/>



ホルヘ・オブレゴン展覧会 「メキシコと日本、火の領域」

10月22日 18:30～

在日メキシコ大使館 エスパシオ・メヒカーノ

culturalembjap@sre.gob.mx

ルイス・ニシザワ画伯の弟子であるメキシコ人画家ホルヘ・オブレゴンの作品展オープニングを開催する。本展覧会は、メキシコと日本の火山をテーマに同氏が現場で描いた油彩画、木炭画、水彩画のコレクションである。他に銀彫刻作品の展示もあり。

ラテンアメリカバザー2014



本年もラテンアメリカ各国の大使館が、それぞれの国の特産品、民芸品、食品などを提供販売する。ラテンアメリカバザー2014は、ラテンアメリカ・カリブ諸国における各種プロジェクトの実施や日本在住のラテンアメリカ出身者支援に供すべく、浄財を募るものである。バザーでは、音楽やダンスのショータイムもあり、航空券やホテル宿泊券、レストランの食事券、商品の詰め合わせ等を景品とする籤引き抽選会も行なわれる。

入場券購入に関する当大使館窓口：

電話：03-3581-1131

E-mail: nsonoda@sre.gob.mx

藺田奈苗(担当者)

チャリティーバザー

10月29日 11:00-15:30

東京プリンスホテル